



新型コロナワクチン接種後の 乳がん検診受診希望の皆様へ

新型コロナワクチン接種後の副反応として、倦怠感や頭痛、発熱などがおきることはご存じの方も多いと思います。

こうした症状に加えて、ワクチン接種後に、接種した側の脇の下のリンパ節（腋窩リンパ節）が一時的に大きくなることがあると報告されています。これは、病気ではなく、ワクチン接種に伴う自然な症状であり、良好な免疫反応を獲得している兆候ですので心配はいりません。

しかしながら、検診のマンモグラフィーや乳腺超音波では腋窩リンパ節が明らかに大きい場合、精密検査が必要と判断される場合があります。

当施設では、誤った判定を防ぐため**接種後少なくとも6週間以降の実施を推奨**いたします。

ただし、上記期間内であっても受診者様のご希望により検査を承ることは可能です。接種後であることを考慮して判断いたしますので、接種後6週間以内の方は検査担当技師へ『いつ』接種をしたか、お伝えください。

※日本乳癌検診学会参照

<http://www.jabcs.jp/images/covid-guide202106.pdf>